



水谷允一教授近影

水谷允一教授退職記念号に寄せて

水谷允一教授は、平成20年3月末、満74歳をもって本学商学部客員教授を退職されましたが、昭和44年に本学商学部助教授として着任以来、実に38年の長きにわたって本学ならびに商学部の発展に寄与されてきました。水谷先生の御略歴と私の知る小さなエピソードを紹介し、先生の退職記念号に寄せる言葉とさせていただきます。

水谷先生は、昭和31年金沢大学法文学部を卒業の後、明治大学大学院経済研究科修士課程・博士課程に進まれました。そして、同大学博士課程単位取得満期退学の後、昭和36年4月に函館商科短期大学講師として赴任されましたが、昭和41年には北海道から九州へ赴任され九州共立大学助教授になられました。その後、昭和44年4月に本学商学部助教授として迎えられ、昭和54年に教授昇格を果たされました。その間、本学商学部教務主任を務められ、ワシントン州立大学での海外研修も経験されております。

水谷先生の教授歴は客員教授を含め29年間に及び、研究業績の詳細は巻末に譲りますが、著書、単著10編、共著4編、学術論文14編他多数に上っております。特に平成3年に同文館から出版された『戦後日本経済史－生産・流通・消費構造の変化－』では、高度経済成長期の日本経済をエネルギー革命、生産革命、流通革命、消費革命の4側面から分析し、その成果は日本国内だけでなく海外でも高く評価されております。この点は、同書が中国でも翻訳・出版されていることから明らかです。

学会活動においては、日本消費経済学会理事や副会長、アジア市場経済学会理事などを歴任されました。この他に、社会的貢献では愛知県及び名古屋市、岡崎市、春日井市などで各種委員や副会長も務められました。

教育に関しては「日本経済論」、 「消費経済論」等を担当され、学生の面倒見のよさだけでなく、公務員への道を開くべく長年に渡り努力されてきました。今でこそエクステンションセンターにおける公務員講座があったり、学生の就職活動に注力する教員も増えて参りましたが、水谷ゼミでは30年以上前から、現在でいうSPIの指導や、公務員試験に不可欠な経済学の基礎が繰り返し教え込まれていたのです。

また、クラブ活動における学生指導でも、雄弁会顧問、準硬式野球部長、水泳部長、チアリーダー部長等、数多くの顧問・部長を務められ、その面でも多大な貢献をされてきました。クラブ活動の顧問・部長はまったくのボランティアであるだけでなく、何か問題が起きれば全責任を負う覚悟が必要な、きわめて理不尽な役職です。したがって、クラブから依頼があっても、教員としては差し障りないクラブに限るか、完全に拒否するのが当たり前の状況になってしまっているようです。しかし水谷先生はこのような損な役回りまで積極的に果たしてこられたのです。

ところで、水谷先生の研究室を訪れた方はご存じだと思いますが、先生の研究室は独特の雰囲気がありました。われわれ若輩者（今では年配になってしまいました）がどんな用件で研究室を訪れても、常に温かく迎えられ、必ず日本茶をご馳走して下さったのです（ただし、その急須がきわめて小さなアルミ製で、しかも年代物なのです）。そして大学や商学部の問題点や大学のあるべき姿について、豊富な学識や経験を交えて話して下さいます。また、私はできないのでその方面の話はしませんが、囲碁の話などをすれば、さっそく碁盤を用意され一局囲む経験をされた先生もいたそうです。

水谷先生の本学商学部における38年にわたる輝かしい経歴ならびに学術研究分野における貢献に対し、平成21年4月には本学「名誉教授」の称号を授与されましたが、私としましては、あの昭和の雰囲気が漂う研究室でのお話しに対しても名誉教授の称号が授与されたものと信じております。水谷先生、長い間本当にご苦労さまでした。そして本当にありがとうございました。退職の後も先生がお健やかで、本学だけでなく、地域や社会のために末永くご活躍されることを祈りながら、退職記念号に寄せる言葉に代えさせていただきます。

愛知学院大学商学会 会長 田 畑 康 人